

雪の音で

Vol. 142

令和3年6月15日発行



巻頭言	富山県の安全・安心を守り 成長・発展を支える社会資本整備	富山県 土木部長 江幡光博	1
特集	信濃川における治水対策の取り組み状況 ～大河津分水路「令和の大改修」の実施状況～	国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所	2
寄稿文	空き家はネガティブ？ ポジティブに！	合同会社ニトデザイン&リビルド 代表 打田亮介	8
ちよつと気になる コーナー	吉原探検と桜なべ満喫	(株)新潟トラベル 常務取締役 山崎康裕	12
お知らせ	令和2年度 「コンプライアンスに関する講習会」報告	総務部会 倫理・法令委員会	14
お知らせ	令和2年度 BIM/CIM講習会 「河川・砂防設計におけるBIM/CIM活用の取り組み」	技術部会 河川・砂防委員会	16
お知らせ	令和3年度(第39回) 北陸支部定時総会	総務部会 総務委員会	18
	会員名簿 役員・委員名簿	事務局	19
	編集後記	長田宏之	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙写真]

タイトル 通りすがりの風景
SLばんえつ物語と早出川
撮影地 新潟県五泉市
撮影者 猪俣孝之

[裏表紙写真]

タイトル 通りすがりの風景
牡丹園
撮影地 新潟県五泉市
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

富山県の安全・安心を守り 成長・発展を支える社会資本整備

富山県 土木部長
江 幡 光 博



富山県では、災害から県民の生命と財産を守るため、また地域の成長・発展につなげるため、社会資本整備を計画的かつ強力に進めることで県土強靱化と新型コロナの影響で低迷する地域経済の活性化の双方の達成を目指す「令和のインフラ・ニューディール政策」を進めることとしています。令和3年度の当初予算と令和2年度の補正予算とを合わせた14か月予算で公共事業費889億円を計上しました。これは、デフレ脱却の起爆剤となった平成25年度の865億円を上回る規模です。

富山県は、明治39年に県営で開始され、後に国直轄事業となった立山砂防に代表されるように、古くから防災・減災対策に積極的に取り組んできた結果、今日では全国的に見ると比較的災害の少ない県と言われています。しかしながら、近年、気候変動の影響により自然災害が激甚化・頻発化しており、県では、これに対応するため「富山県国土強靱化地域計画」を昨年3月に見直しました。この計画に基づき、県民の生命と財産を守るための整備として、河川改修や河川の伐木・浚渫、海岸保全施設や砂防堰堤の整備、橋梁や海岸堤防、港湾施設の耐震化などのハード対策に加えて、河川の水位情報や監視カメラの一般公開などのソフト対策も進め、本県の強靱化及び国全体の強靱化に貢献する取組みを一層推進してまいります。

公共土木施設の老朽化対策では、ライフサイクルコストの低減や修繕費用の平準化を図るため、橋梁をはじめ都市公園、下水道、ダムなどの長寿命化計画を

順次策定し、その計画に基づき、施設の健全度と重要度に応じて優先度の高いものから修繕を進めています。さらに、昨年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」では「予防保全型インフラメンテナンスの転換に向けた老朽化対策」が柱の一つに加えられたことから、県もこの動きに呼応して、早期の対応が必要な施設については前倒して予算確保を図ることを含め、インフラの長寿命化・更新を計画的に進めてまいります。

また、本県の成長・発展につなげるため、東海北陸自動車道の4車線化や富山高山連絡道路、国道8号など骨格となる幹線道路や歩道の整備、伏木富山港の機能強化など、物流と生活を支える社会資本の整備を推進してまいります。なかでも、東海北陸自動車道は北陸地域と東海地域、日本海側と太平洋側を結ぶ中部圏の大動脈として国土強靱化の観点からも重要な道路であり、早期の全線4車線化が必要と考えています。昨年11月には城端SAから福光IC間の延長約2.3km区間が完成し、県内初の4車線供用という大きな節目を迎えました。県としては、飛騨トンネルなど、残る区間の早期事業化に向けて国などに強く働きかけてまいります。

終わりに、貴協会の皆様には、今後とも、地域の安全・安心を守り成長・発展を支える社会資本整備を進めるため、ご支援とご協力をお願いいたしますとともに、貴協会の限りないご発展と会員の皆様方のますますのご活躍、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

信濃川における治水対策の取り組み状況 ～大河津分水路「令和の大改修」の実施状況～

国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所

1. はじめに

令和元年10月の令和元年東日本台風による洪水では、信濃川水系をはじめ、多くの河川で堤防が決壊するなどして甚大な被害が発生した。昨年も、7月に九州の球磨川水系や東北の最上川水系などで洪水が発生し、再び甚大な被害が発生しているところである。本稿では、令和元年東日本台風から1年半余が経過し、この洪水を契機として信濃川河川事務所で行っている防災、減災に向けた各種治水対策の取り組み状況、及び大河津分水路「令和の大改修」の実施状況について紹介する。

2. 令和元年東日本台風による洪水の状況

令和元年東日本台風は、令和元年10月12日の夕方から夜にかけて、非常に強い勢力を保ったまま東海・関東地方に上陸し、信濃川流域に観測史上最大雨量となる大雨をもたらした。信濃川水系（千曲川～信濃川）では、多数の水位観測所で観測史上最高となるピーク水位を観測し、長野市穂保地区における堤防決壊をはじめ浸水被害が多数発生し、流域に甚大な被害が生じた。

信濃川中流域においても、千曲川で生じた洪水が時間をかけ流下し、小千谷水位観測所（計画高水位を約3時間40分超過）、長岡水位観測所（氾濫危険水位を超過）、大河津水位観測所（計画高水位を約9時間50分超過）において、観測史上最高水位を観測し、無堤区間等において床上・床下浸水を生じさせるなどの被害が生じた。

当事務所も早い段階から台風への備えを進め、12日の段階から長野県で発生した大雨の状況を踏まえ、13日に信濃川でも大規模な出水が見込まれること等を関係自治体へ連絡するとともに、災害協定建設業者の皆様に対し、機材等の確保や土のう製作の依頼を行う等の備えを進めた。

翌13日、長時間継続する高水位により多数の箇所では堤防漏水等が発生するなど、堤防が危険な状況となったが、水防団や関係建設業者の皆様のご活躍、防災エキスパートの皆様からの的確な助言等により、堤防決壊を回避し、大河津分水路を通じ洪水を日本海へ流しきることができた。

大河津分水路が、日本海に大洪水を流している状況は、報道やSNS等で多く取り上げられ、“越後平野の守り神”等、多くの賞賛を受けた。また、次の洪水への備えのため、地元自治体をはじめ、多くの方々から、現在実施中の大河津分水路「令和の大改修」の早期完成、信濃川本川の治水安全度向上に向けた堤防強化や河道掘削の早期完成の要望をいただいているところであり、一刻も早い工事完了・効果発現に向け、沿川の地元住民の方々のご理解、ご協力をいただくとともに、関係機関等と連携しながら、事務所一丸となって各種事業を進めているところである。



図1 令和元年東日本台風による洪水の状況（河口部）



図2 令和元年東日本台風による洪水の状況
（JR越後線 信濃川分水橋梁）

3. 信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの概要

気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの河川管理者等の取り組みだけでなく、集水域から氾濫域にわたるあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換を進めることが必要となっている。

そのため、全国の一級水系などにおいても、河川整備に加え、流域の市町村などの関係機関が実施する治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」としてとりまとめ、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速していくこととしている。

信濃川水系においては、流域治水の取り組みの先駆けとして、令和元年東日本台風により、千曲川上流域から信濃川中流域にわたって、甚大な浸水被害が発生したことから、流域内の国・県・市町村が連携し、「河川における対策」、「流域における対策」、「まちづくり、ソフト対策」からなる「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を令和2年1月にとりまとめた。国管理区間では災害・改良復旧を合わせて約1,227億円規模で、令和9年度迄の期間で各種対策を実施しているところである。

信濃川中流域の河川整備については、令和元年東日本台風洪水における信濃川本川の越水等による家屋の浸水を防止することを目標とし、後述する大河津分水路「令和の大改修」の推進と合わせ、堤防の整備や強化、河道掘削の他、中流域では初となる遊水地の整備を実施することとしている。

また、流域治水の取り組みの一環として、流域内各ダムの利水容量の一部を事前放流し、洪水調節容量を確保する利水ダム等との治水協力に関する協定を締結し、運用を開始している。

さらに、ソフト対策としては、流域自治体それぞれでマイ・タイムラインを作成し普及する「逃げ遅れゼロ大作戦」を展開しているところである。



図3 マイ・タイムラインの事例（燕市）

なお、信濃川水系では、先述の短期的な取り組みとして実施する緊急治水対策プロジェクトを包含し、関係者を拡大し、中長期的な取り組みとしてとりまとめた「信濃川水系流域治水プロジェクト」を令和3年3月に公表している。

4. 大河津分水路の概要

大河津分水路は、信濃川水系信濃川の新潟県燕市大川津付近で分派し、同長岡市寺泊付近で日本海に注ぐ、全長約10kmの人工河川である。

大河津分水路の工事は、明治29年（1896）に発生し越後平野の広範囲に甚大な浸水被害をもたらした大洪水「横田切れ」を契機に、信濃川が日本海に最も近づく位置において明治40年（1907）より工事に着手し、イギリス等から輸入した当時の最新の大型土木機械を使用し、我が国の人口が4,000万人という時代に延べ約1,000万人の人々の力が結集され、今から約100年前の大正11年（1922）に通水した。

しかし、通水から5年後の昭和2年（1927）に大河津分水路への流量を調節する自在堰が急激な河床低下により陥没したことから、河床安定性を確保するための第二床固をはじめとする床止め群、及び自在堰に代わる施設として的大河津可動堰の整備からなる「信濃川補修工事」に着手、昭和6年（1931）に完成し、ほぼ現在の姿となった。

エキスカベーターによる掘削

スチームナビーによる掘削



図4 大河津分水路の開削で使用された大型土木機械

5. 大河津分水路に有する課題と大河津分水路「令和の大改修」の概要

大河津分水路は、建設当時の技術的制約などから、河口に向かって漏斗状に狭まる形状であり、大河津可動堰付近の川幅約720mから、河口付近では約180mとなっており、上流に向かって堰上げによる水位上昇が生じる。

また、分水路通水前は現在の分派点から約60kmを経て日本海に至っていたが、これを約10kmでショートカットしたことにより河床が急勾配となり、昭和6年（1931）の「信濃川補修工事」の完成後も河床低下のリスクが生じ続けている。さらに、河床低下を抑制する要の施設であ

る「第二床固」は、昭和6年の完成から90年近くが経過し、老朽化が進行している。

こうした課題の解消に向けて、大河津分水路を含む一連区間の洪水時の水位低下による堤防決壊の防止と、信濃川上・中流域の治水安全度向上のため、平成27年度より「大河津分水路改修事業（令和の大改修）」に着手した。本事業は、大河津分水路山地部及び低水路の拡幅と掘削土の有効活用、拡幅に伴う第二床固の改築（新第二床固の建設）、及び橋梁（野積橋）の架替を行うものであり、総事業費約1,200億円、事業期間18年間で令和14年度の完成に向けて事業を推進しているところである。

事業完成後は、信濃川水系河川整備計画の目標である、昭和56年（1981）8月洪水と同規模の洪水が流下した場合でも、河口から約20kmの一連区間の水位が計画高水位以下に低下することで、堤防決壊の防止、及び支川合流部の水位低下が図られる。また、信濃川上・中流域の更なる治水安全度の段階的な向上に向けた事業の実施が可能となる。

なお、令和元年東日本台風による洪水では、大河津分水路で、川底から約12mの計画堤防高に対し、残り1mのところまで水位が到達した。大河津分水路「令和の大改修」の完成後に、令和元年東日本台風と同規模の洪水が再来した場合、大河津水位観測所付近で約2m水位を低下させる効果を発揮することから、地元から早期完成の要望を多くいただいているところである。

6. 大河津分水路「令和の大改修」の実施状況

（1）山地部及び低水路の拡幅

山地部掘削は、平成30年度より本格的に着手し、新第二床固左岸側及び掘削土搬出のための工事用道路整備

にかかる部分を中心に掘削を進めている。掘削土は、これまでに三条市や燕市の公共事業に活用いただき、現在は、燕市分水西部のほ場整備事業の盤上げ盛土や大河津分水路左右岸堤防の強化に活用しているところである。全体で約1,000万 m^3 （東京ドーム約8杯分）に及ぶ掘削土が発生することから、今後とも関係自治体等と連携し、地域の活性化に資する掘削土の有効活用を図っていくこととしている。

また、山地部掘削の完成までに期間を要することから、早期の水位低下効果発揮のため、令和2年度より低水路の掘削を進めている。



図6 山地部掘削の状況

（2）拡幅に伴う第二床固の改築（新第二床固の建設）

第二床固は、大河津分水路の河床の安定を図るための要の施設として、昭和6年（1931）に完成した河川を横断するコンクリート構造物であるが、大河津分水路の拡幅に伴い、現在の第二床固の約200m下流に新たに新第二床固を設置するものである。



図5 大河津分水路「令和の大改修」位置図



図7 大河津分水路河口部の工事状況



図8 新第二床固 鋼殻ケーソン

現在は、新第二床固の右岸側を第Ⅰ期工事として、平成31年2月に工事を契約し、令和5年度の完成を目指して工事を進めているところである。引き続き、令和9年度の新第二床固完成を目指し、順次工事を進めていく予定である。

現在実施中の工事施工箇所は、河川の流水に加え、海上からの強風、波浪の影響を受ける非常に厳しい条件下であるが、限られた施工期間の中で着実に工事を進めているところである。現在、新第二床固本体の一部となる鋼殻ケーソンについて、全9函のうち、1函目の据付・設置及び2、3函目の曳航据付が完了し、2、3函目の設置作業を行っているところである。今年度下半期以降に、さらに3函の据付・設置を行う予定である。



図9 鋼殻ケーソン据付・設置の状況

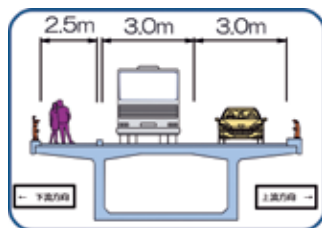


図10 野積橋架替工事全景

(3) 拡幅に伴う橋梁(野積橋)の架替

野積橋の架替は、河口部の拡幅に伴い、現在の野積橋の約200m下流に、橋長426m、幅員10mの5径間連続PC箱桁形式の橋梁を新たに建設するものである。完成すると新たに海側に歩道が設けられ、日本海の眺望が可能となる。

これまでに右岸側の橋台と橋脚2基が完成し、現在、河川中央部の橋脚工事の早期完成に向け工事を進めているところである。



新野積橋(仮称)の横断面図

7. 大河津分水路「令和の大改修」における先進的な取り組み

(1) BIM/CIMの取り組み

当事務所は平成31年に全国の「i-Constructionモデル事務所」10事務所のうちのひとつに選ばれ、「3次元情報活用モデル事業」として、大河津分水路「令和の大改修」において、調査・設計から維持管理までBIM/CIMを活用しつつ、3次元データの活用やICT等の新技術の導入を加速化させる取り組みを行っているところである。

具体的には、大河津分水路「令和の大改修」全体の測量、設計、工事の各段階における個別の業務や工事の成果を3次元データ化し、一元的に組み込んだ統合CIMモデルを構築したうえで、受発注者間でのデータ共有が

可能な情報共有システムを活用しながら運用を行っている。複数の工事を同時に施工する際のBIM/CIMによる仮設計画の確認や、鉄筋構造物の配筋の干渉有無の確認等、現地施工の効率化に寄与している。また、新たに監督・検査でのBIM/CIMの活用検討や3次元データを契約図書として扱う工事を試行するなど検討を進めているところであり、こうした取り組みを通じて、事業の効率化、省力化による生産性向上や働き方改革につなげていきたいと考えている。



図11 事業の各段階での3次元データの活用イメージ

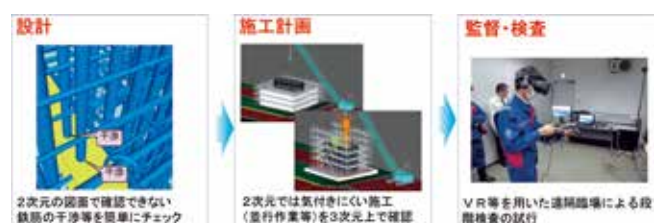


図12 「令和の大改修」におけるBIM/CIMの取り組み



図13 にとこみえ〜る館 外観



図14 にとこみえ〜る館 内観 小学生が来訪し体験学習

(2) インフラツーリズム

大河津分水路「令和の大改修」をVR（仮想現実）等の最新技術によりわかりやすく紹介するなどの事業広報、大河津分水路周辺には、長岡市寺泊地区の魚の市場通りや、弥彦村の弥彦神社、燕市の金属加工産業などの観光資源が多数存在しており、観光拠点、防災教育の拠点としての役割を目的とした「にとこみえ〜る館」を令和2年7月にオープンしており、コロナ禍の状況下であったものの、令和3年5月に来場者1万人を達成し、多くの方に訪れていただいている。

既存の信濃川大河津資料館と併せて、周辺の観光資源と大河津分水路を核としたインフラツーリズムの取り組み（ニトコ・ツアーズ）などを、地元と連携しながら進めているところである。

8. おわりに

「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」及び「大河津分水路（令和の大改修）」の一刻も早い完成に向け、引き続き事務所一丸となって取り組んでいきたい。

また、令和4年（2022）で大河津分水路は通水100年の節目を迎える。関係各位とも連携しながら、多くの方々に大河津分水路の歴史、効果を知っていただき、次の100年に向けた、未来の川づくり・地域づくりにつながるような記念事業等を実施していくこととしている。

分水路を100m拡げる 令和の大改修  令和の大改修 ~大河津分水路改修事業~ YouTube: https://www.youtube.com/watch?v=n78dB4jKL8o 	通水以来最高水位を記録した 晴天の大洪水  晴天の大洪水 ~台風19号 そのとき何が~ YouTube: https://www.youtube.com/watch?v=Yf4a86zqQll 	100年前の工事を描いた 「あの山を拓く」  あの山を拓く YouTube: https://www.youtube.com/watch?v=R_iMMbHyR4o 
---	---	---

図15 動画サイトのQRコード

空き家はネガティブ？ ポジティブに！

合同会社ニトデザイン&リビルド 代表 打田亮介

1. はじめに

まずは自己紹介から。合同会社ニトデザイン&リビルド 代表の打田亮介と申します。北海道出身で建築系の仕事で東京へ。その後2016年に上越市に移住。現在、上越市の高田地区でリノベーション専門の建築業を営んでおります。

ここ高田地区は古くから残る雁木通りと町家が連なっている街です。雁木というのは木造のアーケードみたいなもので、各々の家で私有地を差し出して、冬に雪で埋もれてしまったときに通れるようにしてくれている雪国ならではの助け合いの文化・建築です。その雁木通りの町家に惹かれて移住してきたわけです。

ただこの雁木通りは個人の財産なので、空き家になり家が解体されるのと同時に雁木も壊され、歯抜け状態になってしまうのです。

せっかく古くから残るこの雁木町家を活用して活性化できないか、と考えました。そこで移住してきてまずは町家を再生したカフェを作ることに。当初は高田ではリノベーションした建物というのが少なく、空き家も底値まで下がっていても売れなくてそのままになっているのが多いのです。

なんですっと建築業界なのにカフェ？と思うかもしれませんが、個人的にコーヒーが好き、というのとカフェは老若男女色んな人が来てくれる。そしてリノベーションによって空き家の価値を向上することができる、と高田の人たちに知ってもらいたかったからです。お店を作ったことにより、市内外たくさんの方に来てもらえることができました。

2. つながるリノベーション

カフェを作ったことで建築的な問い合わせが増えることに。そして町家を取得したので改修工事をお願いしたい、という話もお客さんから頂けるようになりました。

カフェの常連さんが町家を購入し、住居としてリノベーションされたり（町家の土間部分を趣味のバイクガレージとして利用）、長野から来ていたお客さんが自身の会社の高田営業所を町家で開設されたり。

私自身が直接関わっていないところでも近くにカフェができたり、ハンバーガー屋さんが町家に移転したり、フルリノベーションしたフレンチレストランができたり、と立ち寄れるお店が増えていきました。



雪の日の雁木通り。雨でも雪でも大丈夫。



移住して4か月後にカフェオープン！



1 運送会社のオフィス
2 ガレージのある町家
3 リノベーションされた町家を紹介するパンフレット

その後、カフェを一旦閉店し、次のステージへ。

まちづくりでも移住した当初からお世話になっている「(一社) 雁木のまち再生」。実際に町家を取得し、貸し出す事業をしています。現在、雁木のまち再生が取得した町家で2人が民泊を営業しています。

そして3軒目の町家を取得した際に、上越青年会議所の事業でリノベーションをすることになりました。DIYリノベーションワークショップで市民の方々に参加して頂き、町家が再生されました。そこではチャレンジショップとして色々な方がお店を開けるように。



チャレンジショップ期間中のイベントの様子

ただ、青年会議所の事業はあくまで1年ごとの事業。その先にどう使われていくかは決まっていなく、そのままではせっかく綺麗になった町家が再び空き家になってしまう…。そこで自分が会社を立ち上げ、一棟借り上げて再度フルリノベーションを行い、複合施設を作るということにしました。

町家はお隣との壁が接しているのも、土壁+ベニヤとかになっているケースが多々あります。この建物も工事前

はお隣さんのお宅のテレビの音が普通に聞こえたりするくらいでした。そこで防音対策として吸音材・遮音シートを入れ、石膏ボードは2重張りにするなどしっかりと行うようにしました。町家では近隣との関係性はとても重要なポイントなので、後から入ったこちらが騒音などで迷惑をかけるわけにはいきません。手間はだいぶかかりましたが、遮音の効果もありました。



お隣さんとの仕切りの壁に防音措置を

そんなこんなで4カ月に及ぶリノベーション工事をを行い、2020年4月に町家複合施設「兎に角」がオープンしました。

1階はコーヒーショップ「DIGMOG COFFEE」と、飲食店営業許可取得のシェアキッチン、2階はシェアオフィスとして3部屋あります。(内1つが自分の本社となっています)



兎に角の外観

兎に角がオープンしたことにより、町家に来てくれる人が増えたり、そこで新たな出会いが生まれたりと色々な動きが。また、2020年に新潟県木材組合連合会主催の「木づかいコンペ2020」にて優秀賞を受賞し、高田の賑わいづくりに貢献できたかと思います。

3. Kinaiyaプロジェクト

2018年から上越市企画政策課主導で「Kinaiyaプロジェクト」というチームを立ち上げ、いろいろな活動を行っております。

Kinaiya= (高田に) 来ないや! という意味から。あまり知られていませんが並べ替えると“akiyan (a) I” (無理やり空き家無い!) というのがテーマです。空き家を活用して高田に来てもらうきっかけが作ればという思いです。

どんなことをやってきたかという、まずは使われていない空き家で飲み会をしよう! という企画で始まった「空き家bar」。初回は延べ50人もの人が集まり空き家に灯りがとまり、賑やかに。



初めての空き家bar。大成功!

他には、空き家をみんなとDIYでリノベーションしてしまおう! という企画で「ミンナデ工務店」。空き町家を購入した方が改装したいということでお手伝いに。SNSで参加を呼びかけ、みんなで塗装したり、漆喰を塗ったりしてプチリノベーションを行いました。建物の持ち主の方、住む予定の方も一緒に参加して喜んでいただけました。



いろいろな人が参加してくれたミンナデ工務店

あとは町家の土間スペースを使ってフリマをやったり、たこ焼きパーティをやったりする「DOMA活」を行ったり、他地域で活動されている方を講師に招き、勉強会を行ったりと高田にある町家を舞台に色々な仕掛けをしてきました。



空き家見学会

市外で活動する建築士達を招き勉強会を開催

そういう活動を続けているとUターンしてくる若い人が出てきたり、若い女性が高田の町家でお店をオープンすることになったりと、実際に空き町家が使われるようになっていきました。



高田にUターンの女性が今春オープンしたお店

高田の古くから残る文化の四九朝市 (4と9の付く日の午前中に開催) とも絡めて「DOMA活」を行うと、近くの小学校の子供たちも遊びに来てくれたりと、「空き家」というネガティブな事案でも人が集まる場を作ることができるということが実証されました。この町家はDIY塗装のワークショップも行わせて頂き、「天国」という名の古道具屋となりました。



朝市と同時に開催したDOMA活

また、Kinaiyaプロジェクト設立時より裏方でサポートして頂いている(株)日本海コンサルタントさんが私たちの活動を通じて、兎に角のシェアオフィスに入居して下さったり(Nihonkai Lab. Joetsu-Takada)、地域住民の中でも雁木町家について関心をもってくれる人が確かに増えていると実感しています。



Nihonkai Lab. Joetsu-Takadaの事務所

昨年度が市の事業としての最後の年。その集大成として活動報告会と空き家についての勉強会を開催しました。SNSで公開すると数日で定員に達するほど反響があり、地域住民にとっても「空き家」というワードは関心があるんだなというのを再認識しました。本番当日は私たちの活動報告のあとに、地元で空き家について精通している弁護士の先生をお招きしてお話を聞きました。

そのあとはフリートークという形でたくさんの方のご意見が。この公開ミーティング、司法書士、不動産、建築士、町内会長、一般の方など本当にたくさんの方々が参加しました。年齢層も20代から70代までバラバラで。みなさん思うところはたくさんあるのでなかなか白熱し、全ての方にお話を聞くことはできませんでしたが、それぞれの立場で思うことを聞かせてもらえました。



勉強会の様子。地元メディアも取材に。

この内容は「キナイヤ白書」としてパンフレット形式でまとめたものを配布したりSNSで発信したりして、来られなかった方にもこういった内容が話し合われたのかを公開する形にしました。

こういったまちづくりの話や移住についての話などはある特定の年齢層の方だけで行うのではなく、全年齢層で関わって考えていくべきだな、と思います。

年配の方だけで行くと若い方はついてこなく、若い方だけで行くと年配の方は若いのがワイワイやって入りづらいという風に感じられてしまうかな、と。高田の街なかでは色んな世代で活動しているので、良い雰囲気になっていると思います。各町内会長さんも非常に協力的で本当にやりやすくなっています。外から入ってくる人に対しても良くしてくれるし、街で会うと色々な話を聞かせてくれます。



報告会の内容をまとめたキナイヤ白書

2018年からの3年間で市の事業としては終了しましたが、Kinaiyaプロジェクトは任意団体として継続していくことになりました。

空き家はどうしてもネガティブな要素としてとらわれることが多いですが、空き家を通じて色々な人と関わったり、新しい人が入ってきたりとポジティブな要素もあると思います。

これからも空き家を通じて高田のまちを活気づけるように様々な活動を行っていく予定です！



吉原探検と桜なべ満喫

(株)新潟トラベル 常務取締役 山崎康裕

新型コロナウイルスの感染拡大が続いておりますが、4月初旬に会議の為東京へ行って来ました。日曜日と言う事もあり、往路の新幹線は1車両10名程度の乗車人数でした。復路は月曜日の昼頃の新幹線でしたが、こちらも同じような状況でした。出来るだけ人と接しない為に昼食はコンビニ弁当で済ませ、視察を兼ねた夕食会も密を避けて済ませました。移動はタクシーを利用して感染するリスクを軽減しての出張でした。その際に立ち寄った「吉原」をご紹介します。

吉原（よしわら）

吉原は、江戸時代に「公許の遊女屋が集まる遊郭」として知られているところです。この近辺では最近、女性の観光客も増えて来ております。吉原は、浅草観光の一部となって来ました。浅草雷門から仲見世を通り、浅草警察方面に向かい、徒歩25分程度で吉原大門に到着します。つまり、散策圏内です。

名所も多く、「衣紋坂（吉原遊郭が見えない様に作られたS字状の道）」「見返り柳（後ろ髪をひかれる思いで見返った場所）」「吉原大門（関東大震災で焼失。現在は鉄柱が建っているだけです）」「吉原神社」「弁天池」などがあります。昭和初期からの建物が多くあり、町中を散策しているとタイムスリップしたような気分になります。

閉店した老舗
「角えび本店」



赤線の名残も見られる



遊郭専門書店 カストリ書房

吉原の中心地に
遊郭専門書店「カストリ書房」
と言う店があります。
遊郭に関する書物や雑貨が販売されていて
レトロな感じのお店です。



カストリ書房

吉原と桜なべ

吉原は桜なべの発祥の地とも言われています。吉原遊郭で金を使い果たした人が、乗ってきた馬を代金がわりに置いていって馬が増えた為、その馬をツブして鍋にして出した事が始まりらしいのですが、定かではありません。全盛期には吉原に20軒以上の桜なべの店があったそうですが、現在は数が減ってきています。

現在営業しているお店では老舗の「桜なべ 中江」をご紹介します。明治38年創業で、平成17年には創業100年を迎えました。現在の店主は、4代目の中江白志さんです。



「桜なべ 中江 別館 金村」玄関

今回は夕食前の時間を利用して、特別に中江さんから吉原散策の案内をして頂きました。吉原大門から衣紋坂、見返り柳、中江本店（吉原土手：現在の土手通り）、あしたのジョー像、女性に人気の吉原神社、心霊スポットの弁天池などを散策致しました。

夕食は、吉原最後の料亭「金村（国の有形文化財の建屋）」を中江さんが買取り、「桜なべ 中江別館」としてVIP専用の貸切会場として利用されている建物で「桜なべコース」を頂きました。

「金村」は吉原遊郭廃止後、他の茶屋や料亭が次々と閉店する中、最後の料亭として「吉原文化」と「江戸の粋」を伝えて来ましたが、残念ながら

平成21年にお店の歴史に幕を閉じる事となりました。金村の閉店を知った中江さんが「吉原の文化と歴史を消してしまうのは忍びない」と言う思いから、「金村」を引き継ぐ事となったそうです。

宴会場は通常ですと20名以上は入る広さがありますが、コロナ禍の影響や芸妓を入れる事を考え、6名+芸妓2名での宴会となりました。メニューは「先付け」「馬肉燻製入りシーザーサラダ」「極上馬刺し」「極上馬刺し握り寿司」、メインの「桜なべ」などで大満足致しました。



浅草芸妓のおねえさん方



極上馬刺し



極上馬刺し握り寿司



馬肉燻製入りシーザーサラダと
馬肉燻製



桜なべの具材



土手通りにある「あしたのジョー」像

観光

ワクチン接種が上手く行って、コロナ禍が収まって来ましたら是非お訪ねください。

お勧めは、浅草雷門や浅草寺周辺を観光して、人力車（雷門発着）にて吉原方面へ。その後、東京スカイツリーなどを観光後、浅草に戻り、水上バスにて隅田川を下りながら他の目的地へ。1日かかりますが東京を満喫できると思います。

1日も早いコロナ禍の終息を願っています。

令和2年度 「コンプライアンスに関する講習会」報告

〈総務部会 倫理・法令委員会〉

講習会の概要

令和3年2月15日（月）～21日（日）にかけて、「コンプライアンスに関する講習会（録画）」をWEB配信にて開催したので報告いたします。

WEB配信には133名の視聴申し込みがありました。講師の大須賀久人氏には、ご自身の経歴や会社の紹介に始まり、コンプライアンス（インテグリティ）の重要性、医療用医薬品業界におけるコンプライアンスの実情、不正行為の予防方法まで、具体的に分かりやすく解説していただきました。

次第と開会挨拶

1. 開会挨拶 支部長 寺本邦一

2. 講演

演題：「他業種の実態から考えるコンプライアンス」

講師：アッヴィ合同会社

コンプライアンス部 大須賀久人 氏

開会に際し、寺本北陸支部長より講師への謝辞があり、続いて以下の挨拶がありました。



寺本支部長の開会挨拶

「本年のコンプライアンス講習会は、厳しいコロナ禍において感染拡大防止を目的にビデオ録画によるWEB配信となりました。建設コンサルタントはコロナ禍においても、社会機能を維持するため、継続して安全・安心の確保等の使命を強く要請されており、感染防止対策を徹底して業務執行して行く必要があります。（中略）

近年建設業界では公共事業の信頼性を著しく失墜させる事象が発生しています。また、政府は激甚化する自然災害に対し国土強靱化のための5か年加速化対策をスタートします。次の時代に向けて社会的役割を強化する時です。本日の講演会を踏まえ、健全なコンサルタント活動を推進していただくよう皆様をお願いして、挨拶といたします。」

大須賀氏の講演概要

以下に講演の要旨を報告します。

（1）自己紹介／会社紹介

私の職歴は、製薬品業界のMR（医薬情報担当者）から始まり、法務の仕事を経験し、最近約10年間はコンプライアンス専任者として、この業界のコンプライアンスの推進を行っています。現在はアッヴィ合同会社に属しており、社会人30年目となります。



講師：大須賀久人 氏

アッヴィ合同会社は、米国のアッヴィ・インクという製薬品会社から、2013年にバイオ医薬品部門が独立して設立した、医薬品を提供する製薬会社であります。

（2）コンプライアンス（インテグリティ）とは

①コンプライアンスを取り巻く社会環境

近年、医薬品業界以外では、食品表示偽装、基準外免震装置出荷、検査データ改ざん等。医薬品業界では、虚偽・誇大広告、副作用報告遅延、製造工程の逸脱等の不適切事案が報告されています。これらが最近になって表面化したのは、従来ある程度許容されてきた時代から、ルールをルール通りに運用する時代に変化したものと言えます。よって、業界を問わず、我々企業はルール厳守を第一に考えて企業活動を継続することが最も重要と認識すべきです。

②コンプライアンスとは？

コンプライアンスの定義としては法令・倫理規範の遵守であり、企業がルールに従って公正・公平に業務を遂行することだと認識しています。しかし、今の時代は倫理規範の厳守だけでは不十分で、社会的要請（ニーズ）に適応し、「周囲の理解と納得」を得ることが重要だと考えます。例えば、法令違反をしていないが周囲の納得を得られなかった事例として、「食材の使い回し」や「公用車の私的使用」などが挙げられます。この「周囲の理解と納得」を得るためには、インテグリティ（誠実さ）が今求められています。

③なぜインテグリティなのか？

現在、ルール通りに遵守するのは当たり前で、ルール（明文）化されていることよりもルール（明文）化されていないことの方が圧倒的に多く、「ルールに書いていないからやっても良い」ではすまされない時代となってきました。よって、ルールの本旨を考える習慣をつけていくことで、大きく間違った方向に判断していかないように、広い意味でのインテグリティ（誠実さ）が求められています。

④真のビジネスの成功とは

コンプライアンスのないところに真のビジネスの成功はありません。売上・利益を追求することは企業活動として重要なことではあるが、これがコンプライアンスを上回るということとはあり得ない。これは、会社としての考え方であり、経営陣がこのことを十分理解しておかないと、その組織においてコンプライアンスが十分に浸透していかない。また、「周囲の納得」という面で、周囲（重要視すべきステークホルダー）は誰なのかというと、医薬品業界では「患者さん」ということになります。

（３）医薬品業界におけるコンプライアンス

①業界の特性

医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品がありますが、今回は医療用医薬品におけるお話です。医療用医薬品は生命に係るものであり、保険制度（公費の使用）により提供されるものであるため、当局（厚生労働省）主導の厳しい規制に加えて、より高い倫理観が求められています。このような状況から、様々な業界自主基準を設けています。

②業界の規制の変貌

医薬品業界では、過去に不祥事がなかったわけではなく、誇大広告や副作用報告の遅延等の事象は発生していましたが、徐々に様々な規制（医師への接待等）が強化され、また、当局（厚生労働省）主導による監視事業（モニターリサーチ）やガイドラインも拡充していき、課徴金制度も導入されました。

③企業でのコンプライアンス推進

コンプライアンスプログラムに不可欠な7つの要素として、「1）行動規範、2）推進部門／委員会、3）トレーニング、4）コミュニケーション（報告する文化）、5）監査／モニタリング、6）違反時の対応、7）改善処置」が挙げられますが、これらを全体でバランスを取りながら、コンプライアンス厳守の活動を行っています。

（４）不正行為の予防と対応

①不正のトライアングル（不正はなぜ起こる？）

不正行為には次の3つの要素が揃った場合に発生します。「1）動機（プレッシャー：お金が必要な差し迫った状況）、2）機会（会社のお金を拝借できる状況、誰も見ていない状況）、3）正当化（不満による正当化、ちょっと

だけならという規模の正当化）」。

②「動機」の予防／対応策

兆候：何かに悩んでいる様子、成績達成に強い執着がある、期限に対する厳守意識が高すぎる、等。

予防：悩みを聞く機会、コンプライアンス＞売上至上のマインドセット、小口融資プログラム、等。

③「機会」の予防／対応策

兆候：担当交代を嫌う、長期休暇を嫌う、業務詳細を話すのを嫌う、等。

予防：人事ローテーション、不定期の声掛け（チェック）、プロセスの定期的な検証（モニタリング）、等。

④「正当化」の予防／対応策

兆候：会社／上司に不満有り、仕事の進め方が杜撰、成績が良い（自分へのご褒美感が出る）、等。

予防：正当な人事評価と報酬制度、理解と納得、会社の魅力の共有、信頼関係の構築、等。

⑤不正が相談／報告される「Speak Up文化」を造る

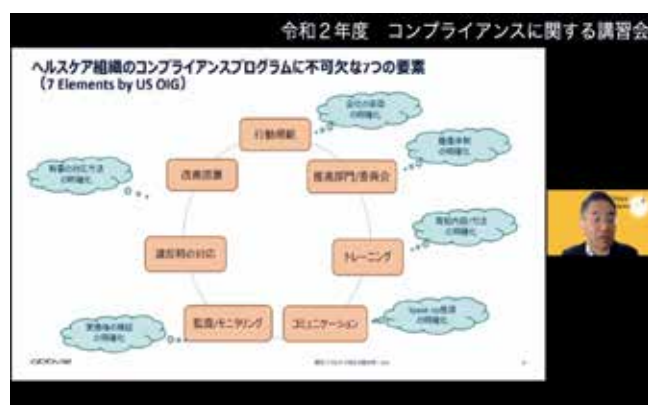
「Speak Up文化」を造るためには、「言わないことは悪である」「個人対応ではなく会社として対応すべき」「相談／報告先を明確化する」「会社／上司は真の傾聴を行う（相談があれば必ず行動する）」という考え方を社員に植えつける。また、日本固有の考え方（問題提起すると「会社に迷惑がかかる」「密告であり裏切り者」）から脱却する必要があります。

⑥会社の文化醸成はリーダーから！

会社の文化醸成は、経営層（リーダー）がお手本を示し、強いメッセージを発信することに尽きると思います。

（５）まとめ

まずはマインドセットが必要です。これはトップマネジメントから発信して下さい。また、社員一人一人が正しい行動の強いオーナーシップを持って下さい。その上で、社員の皆さんは「守るべきは守る」「Speak Up文化の醸成」「万一何が起こったら隠さない」という行動を取って下さい。最後に「すべてはステークホルダーの理解と納得のために」という認識を常に持って今後も対応をお願いします。



WEB講習会の様子

お知らせ

令和2年度 BIM/CIM講習会 「河川・砂防設計におけるBIM/CIM 活用の取り組み」

〈技術部会 河川・砂防委員会〉

1. はじめに

国土交通省では、令和5年度までに小規模を除く全ての公共工事でのBIM/CIM原則適用の方針を公表している。建設コンサルタントにおいては、年々BIM/CIM活用業務が増えており、今後、更なる3次元モデル活用技術の向上と工事・維持管理への展開が課題となる。このような動向を受け、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部では、北陸ICT戦略研究会の一員として、平成30年度からBIM/CIM講習会を開催しており、令和2年度は「河川・砂防設計におけるBIM/CIM活用の取り組み」と題して、設計成果が工事に使用された河川事例と、砂防工事における3次元モデル活用の紹介を中心に、Web録画配信による講習会を開催した。

2. 講習会プログラム

①『CIM導入ガイドライン』策定時の設計・施工事例と現状の課題(千曲川荻原地区の事例)

(株)東京建設コンサルタント 盛 伸行 氏

②大河津分水路山地部掘削工事への活用のためのCIM検討事例

(株)建設技術研究所 金井 淳 氏

③大河津分水路工事におけるCIM活用事例(新第二床固設計)

八千代エンジニアリング(株) 小林優一 氏

④砂防工事における3次元モデルの活用 〔施工者から設計者への提言〕

(株)森下組 森下真朋 氏



①講師：盛氏



②講師：金井氏



③講師：小林氏



④講師：森下氏

3. 講演の内容

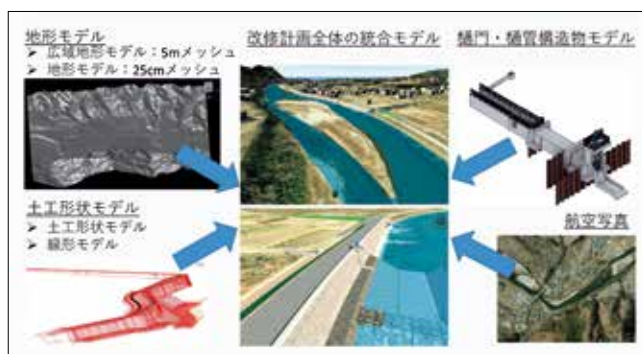
各講演の概要は以下のとおりである。

(1) 河川分野における取り組み事例

①『CIM導入ガイドライン』策定時の設計・施工事例と現状の課題(千曲川荻原地区の事例)

国土交通省「産官学CIM」の河川事例として取り上げられた千曲川荻原地区の改修について、設計・施工段階でのCIM試行事例を紹介いただいた。

堤防護岸、樋門等の3次元モデル化による打合せ利用、照査活用のほか、施工段階のCIM支援業務として、施工業者の活用ニーズ等を踏まえた施工用3次元モデル作成等の説明があった。各々の活用の効果、課題を解説いただき、その後の知見を踏まえた現状のBIM/CIM活用として、「堤防法線検討」での作業の効率化や、「従来の設計手法とBIM/CIMの融合」といった課題が紹介された。



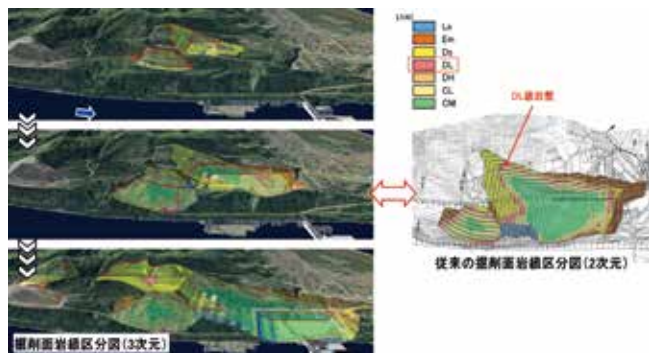
地形、堤防、樋門等構造物の統合モデル

②大河津分水路山地部掘削工事への活用のためのCIM検討事例

全長2km、総土量1,000万 m^3 に及ぶ大規模掘削工事において、関連工事(新第二床固・野積橋)との整合を図った掘削計画、土砂搬出方法の検討にBIM/CIMを活用した事例を紹介いただいた。

大規模かつ長期工事について、施工段階毎の掘削計画や発注者協議における合意形成、住民説明等へのCIM活用のほか、土工形状・地質岩級区分モデルの作

成による「施工段階に応じた掘削法面の切土勾配照査」や、「平均断面法で115断面に及ぶ岩級別土量算出」の効率化について説明があった。また、広範囲・高精度モデルにおける3次元データのハンドリングの悪化について課題提示があった。



懸案地層を視覚的に把握するためのモニタリング活用

③大河津分水路工事におけるCIM活用事例 (新第二床固設計)

事業全体を考慮した安全で確実性の高い施工計画を立案するため、新第二床固工設計において実施された周辺地形、既存構造物を含む3次元モデルの作成と、業務でのCIM活用事例を紹介いただいた。

CIM活用では、「発注者との細部条件の確認」や「関係機関協議資料(工事発注図書)の作成」、さらにはBIM/CIMマネジメント業務との関連性や情報共有システムの内容など、複数業務における活用について具体的な説明があった。



事業全体を考慮した施工計画モデル

また、CIM推進に向けた社内教育の取組として、資格制度や研修内容についても紹介された。

(2) 砂防分野における取り組み事例

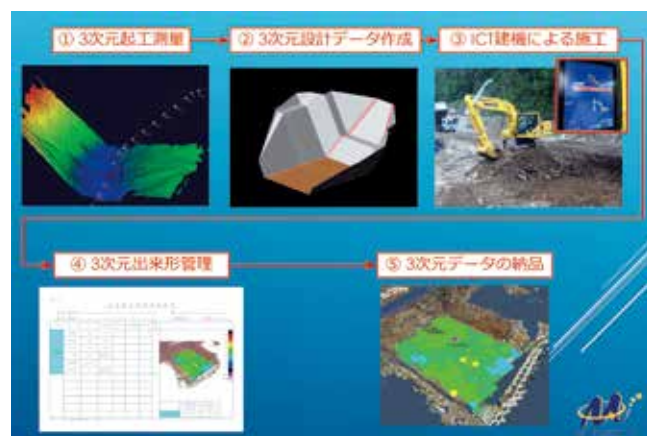
④砂防工事における3次元モデルの活用

〔施工者から設計者への提言〕

砂防部門については、BIM/CIM成果が工事で活用された事例が少ないことから、施工者の立場から設計者へ

の提言を交えて、砂防工事現場における3次元モデルの活用事例を紹介いただいた。

砂防工事でのICT活用プロセス(①3次元起工測量、②3次元設計データ作成、③ICT建機による施工、④3次元出来形管理、⑤3次元データの納品)について、各工程での実施内容や使用機械・建機の説明があった。砂防工事では現場の特性上、施工条件や通信環境の制限はあるが、3次元データが生産性向上につながる。ただし、堰堤など構造物だけでなく、ICT土工に利用できる床掘形状まで3次元化することが重要であるとの提言があった。



砂防工事のICT活用プロセス

4. おわりに

今年は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、Web録画配信とさせていただきますが、266名の多くの方々から視聴申し込みがありました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、BIM/CIM講習会開催にあたり、北陸地方整備局をはじめ、北陸ICT戦略研究会の皆様からはご理解とご協力を賜り、また講師の方々には、年度末のご多忙な時期にもかかわらず、ご丁寧な資料作成とご講演をいただき心より感謝申し上げます。

令和3年度（第39回） 北陸支部定時総会

〈総務部会 総務委員会〉

1. 概要

去る令和3年4月15日（木）、新潟グランドホテルにおいて、令和3年度（第39回）北陸支部定時総会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会出席者を各社1名に限定したほか、初めての試みとして、YouTubeを使用して総会の模様のライブ配信が行われました。

総会は会員企業63社のうち、35社が委任状、28社の出席をいただき、総会成立の宣言に続き寺本支部長の挨拶がありました。

挨拶では、新たに防災減災国土強靱化5か年計画がスタートし大型予算が執行されることに触れ、地域づくり等に向けた社会資本整備を加速化することになるため建設コンサルタントの社会的役割を速度を挙げて取り組む大事な1年であると述べ、また、デジタル技術を活用した品質の確保、生産性向上に向けてDXデジタルトランスフォーメーションが展開されることにより建設コンサルタントは新たな技術を駆使し社会資本全体をリードする役割を期待されており積極的に取り組んでいかなければならないと表明されました。



問診及び検温状況



寺本支部長の挨拶

2. 議事概要

令和3年度（第39回）北陸支部定時総会【概要】

1. 支部長挨拶

2. 議事録署名人委託

議事録署名人

(株)ダイヤコンサルタント

北陸支店 支店長 大賀政秀 様

(株)千代田コンサルタント

新潟営業所 所長 青木 浩 様

3. 議事

議 案 第1号 令和2年度事業報告（案）

議 案	第2号	令和2年度収入支出決算報告（案） 監査報告
議 案	第3号	役員の選任
報告事項	第1号	令和3年度事業計画
報告事項	第2号	令和3年度収入支出予算

支部長挨拶の後、議長より議事録署名人が委嘱され議事に入りました。

議事では、令和2年度事業報告（案）及び収入支出決算報告（案）、令和3年度事業計画及び収入支出予算が提出され、それぞれ原案どおり承認されました。

令和3年度事業計画では、会員の技術力向上のための調査研究や、地域社会への貢献活動など13の事業を中心に各部会が活動することを決定しました。

- 対外活動部会：発注機関との意見交換に関する事項
- 総務部会：会員会社の経営基盤等に関する事項
倫理・法令等の遵守に関する事項
- 技術部会：技術力向上に関する調査研究、講習会
社会貢献活動等に関する事項
- 広報部会：広報活動、社会貢献活動
広報誌等に関する事項
- 災害対策部会：災害対策活動、訓練等に関する事項
災害対策活動支援の検討、調整に関する事項

また、役員の改選に伴い下記の役員が選任されました。

＜北陸支部役員＞

支部長	寺本 邦一	開発技建(株)
副支部長	大平 豊	エヌシーイー(株)
副支部長	渡辺正三	大日本コンサルタント(株)
副支部長	新家久司	(株)国土開発センター
運営委員長	渡邊雅樹	開発技建(株)
運営委員	黒木康生	(株)日本海コンサルタント
運営委員	瀬川光太郎	(株)建成コンサルタント
運営委員	末武晋一	日本工営(株)
運営委員	青木和之	エヌシーイー(株)
運営委員	齊木 勝	(株)キタック
運営委員	笹谷輝彦	(株)国土開発センター
支部監事	高堂景寿	相互技術(株)
支部監事	佐々木大介	(株)ナルサワコンサルタント

以上、令和3年度（第39回）北陸支部定時総会の概要をお知らせいたします。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

令和3年6月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)新日本コンサルタント		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
舘下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-7-10 新潟セントラルビル	025-246-1920 025-246-2162
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員・委員名簿

令和3年6月1日現在

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	末 武 晋 一	日本工営(株)
〃	運営委員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント

対 外 活 動 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)
	部会員	酒 井 大 助	八千代エンジニアリング(株)
新潟地域委員会	委員長	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	田 邊 敏 夫	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	吉 田 茂	開発技建(株)
〃	委 員	坂 西 和 也	エヌシーイー(株)
富山地域委員会	委員長	柴 田 聡	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	二 俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清 原 宏 二	開発技建(株)
〃	委 員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
倫理・法令委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	田 崎 友 康	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	櫻 井 英 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	河 原 健 二	(株)日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	神 田 和 久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤 巻 智 之	開発技建(株)
〃	委 員	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委 員	杉 野 亨	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	池 潤 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	安 藤 正 幸	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	加 藤 毅	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	浜 谷 智	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	須 佐 慎	開発技建(株)
〃	委 員	吉 田 要	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 村 康 裕	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	塚 嶋 雅 則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	長谷川 哲 也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 雅 之	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	森 川 大 輔	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	竹 野 茂 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	辰 橋 浩 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	山 井 壮 志	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	村 田 亨	開発技建(株)
〃	サブリーダー	中 野 達 也	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	濱 田 康 行	(株)国土開発センター
〃	委 員	一 噌 真佐志	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	石 丸 俊太郎	(株)キタック
〃	委 員	杉 田 友 樹	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	本 間 千 悠	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐久間 佑 多	相互技術(株)
〃	委 員	飯 野 美 樹	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター
広報委員会	委員長	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	新 保 和 広	相互技術(株)
〃	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
〃	委 員	國 兼 功	八千代エンジニアリング(株)
〃	委 員	諏 訪 浩	日本工営(株)
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
会誌編集委員会	委員長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	長 田 宏 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	藤 井 和 行	(株)構造技研新潟
〃	委 員	太 田 博 昭	(株)国土開発センター

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	坂 上 松 則	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

編集後記

なかなか出口が見えない新型コロナウイルス感染症、今は我慢の時期です。

さて、お話は変わるのですが、もう3年近く前になるかと思いますが、車を走らせているとそこに見えてきたのはダムでした。休憩がてら立ち寄り、広大なダムに魅了されていると、管理事務所の入口に「ダムカード配布」の文字が。ご存じの方も多いと思いますが、全てのダムではありませんがカードを配布していました。ダムの全貌の写真は表、裏には所在地、こだわり技術まで端的に記載がありました。カードの配布は管理事務所が多いですが、道の駅や食堂といった、ちょっとした町おこしの事も兼ねているのでしょうか、そのような場所での配布もあります（検索するとでてきますね）。

また、ダムスタンプラリー（レアカードが貰える）やダムカレー、ダムマニア展等も開催しています。阿賀町で行われたダムマニア展に行ってきました。

ダムを廻るに加えカードも貰える、ちょっと得をした感覚がありました。機会がございましたら皆様も素晴らしいダムを見学されて、ダムカードも頂いてみたいかがでしようか。

昨年度はコロナウイルスの関係でほぼ配布も中止でしたが、今後また訪れることができればと思います。早くコロナウイルスの終息を祈ります。

長田宏之

発行／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長／齋藤浩幸

委員／長田宏之 古橋伸彦 藤井和行 太田博昭



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<https://hr-jcca.jp/>